

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-95273

(P2010-95273A)

(43) 公開日 平成22年4月30日(2010.4.30)

| (51) Int.Cl.                         | F I             | テーマコード (参考) |
|--------------------------------------|-----------------|-------------|
| <b>B 6 5 D 5/50 (2006.01)</b>        | B 6 5 D 5/50 B  | 3 E 0 6 0   |
| <b>B 6 5 D 5/28 (2006.01)</b>        | B 6 5 D 5/28    | 3 E 0 6 8   |
| <b>B 6 5 D 5/54 (2006.01)</b>        | B 6 5 D 5/54 D  | 3 E 0 9 6   |
| <b>B 6 5 D 85/42 (2006.01)</b>       | B 6 5 D 85/42 Z | 4 C 0 6 6   |
| <b>B 6 5 D 85/20 (2006.01)</b>       | B 6 5 D 85/20 Z |             |
| 審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 10 頁) 最終頁に続く |                 |             |

|           |                              |          |                    |
|-----------|------------------------------|----------|--------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2008-266451 (P2008-266451) | (71) 出願人 | 000003296          |
| (22) 出願日  | 平成20年10月15日 (2008.10.15)     |          | 電気化学工業株式会社         |
|           |                              |          | 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号 |
|           |                              |          | 日本橋三井タワー           |
|           |                              | (71) 出願人 | 306015238          |
|           |                              |          | 富山スガキ株式会社          |
|           |                              |          | 富山県富山市塚原2-3-1      |
|           |                              | (74) 代理人 | 100101199          |
|           |                              |          | 弁理士 小林 義教          |
|           |                              | (74) 代理人 | 100109726          |
|           |                              |          | 弁理士 園田 吉隆          |
|           |                              | (74) 代理人 | 100130328          |
|           |                              |          | 弁理士 奥野 彰彦          |

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 収納箱

(57) 【要約】

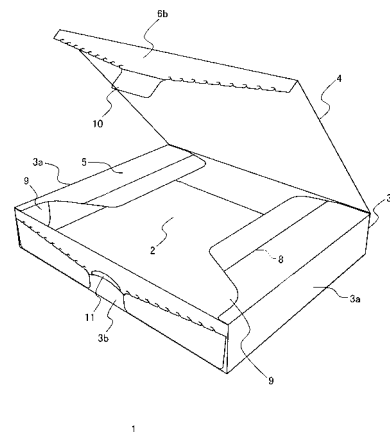
【課題】

輸送時に収納物が動き難く、かつ使用後の解体が容易である収納箱を提供する。

【解決手段】

略矩形状の底面部と、上記底面部に対して略直角である4つの側面部と、上記1つの側面部の一辺に設けられ、閉じている状態では上記底面部と略平行となる蓋部とを備える略直方体の収納箱であって、隣接する上記側面部同士は互いに略直角であり、上記底面部の対向した2つの辺に接するように設けられた一対の上記側面部の一辺にそれぞれ設けられ、上記蓋部が閉じている状態では、上記側面部に対して略直角に折り曲げられ、上記蓋部と重なる一対の羽部を備え、上記底面部の対向した2つの辺に接するように設けられた一対の上記側面部は、切断部が設けられた2つのフラップを有し、上記フラップによって隣接する2つの側面部に接合されることを特徴とする収納箱。

【選択図】 図1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

略矩形状の底面部と、  
前記底面部に対して略直角である 4 つの側面部と、  
前記 1 つの側面部の一辺に設けられ、閉じている状態では前記底面部と略平行となる蓋部とを備える略直方体の収納箱であって、  
隣接する前記側面部同士は互いに略直角であり、  
前記底面部の対向した 2 つの辺に接するように設けられた一对の前記側面部の一辺にそれぞれ設けられ、前記蓋部が閉じている状態では、前記側面部に対して略直角に折り曲げられ、前記蓋部と重なる一对の羽部を備え、  
前記底面部の対向した 2 つの辺に接するように設けられた一对の前記側面部は、切断部が設けられた 2 つのフラップを有し、前記フラップによって隣接する 2 つの側面部に接合されることを特徴とする収納箱。

10

## 【請求項 2】

前記羽部は、その一部に開口部を有していることを特徴とする請求項 1 に記載の収納箱。

## 【請求項 3】

前記蓋部は差し込み部が設けられたフラップを有し、前記フラップが重なる側面部は前記差し込み部が挿入される差し込み口を有していることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の収納箱。

20

## 【請求項 4】

板紙製であることを特徴とする請求項 1 ないし 3 に記載の収納箱。

## 【請求項 5】

前記収納箱の解体時には、前記羽部を前記側面部に重ねて 2 重とし、前記 2 重となった部分を掴んで前記切断部を切断して平坦状に変形可能に構成されていることを特徴とする請求項 1 ないし 4 に記載の収納箱。

## 【請求項 6】

個別に包装された注射器を収納することを特徴とする請求項 1 ないし 5 に記載の収納箱。

## 【請求項 7】

前記注射器には、薬品が充填されていることを特徴とする請求項 1 ないし 6 に記載の収納箱。

30

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、収納箱に関する。

## 【0002】

従来、予め薬品が充填された使い捨ての注射器（シリンジ）が利用されている。この注射器は、プレフィルドシリンジと呼ばれており、この注射器を製造場所から医療現場へ輸送する際には、樹脂製の袋に入れた袋入り注射器を角筒状の収納箱に個別に収納している。（特許文献 1）

40

## 【0003】

一方、物品の輸送に用いられる箱は、使用後に解体されることが多く、例えば、本発明とは技術的な分野が全く異なるが、解体が容易であることを特徴とする箱が提案されている。（特許文献 2、特許文献 3）

【特許文献 1】特開 2007-297065 号公報

【特許文献 2】特開平 10-258829 号公報

【特許文献 3】特開平 11-321852 号公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0004】

50

しかしながら、上記特許文献 1 に記載されるような収納箱には注射器が個別に収納されるため、コストが高く、使用後の収納箱の解体に手間がかかるという問題がある。また、特許文献 2 に記載されるようなケースは、輸送時に箱の中身が動いてしまう可能性があり、注射器等の医療器具を収納して輸送するのには適していない。さらに、特許文献 3 に記載される収納箱は、パウチ等の特定の形状の物品を個別に収納するためのものである。

【0005】

即ち、本発明の目的は、輸送時に収納物が動き難く、かつ使用後の解体が容易である収納箱を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明に係る収納箱は、略矩形状の底面部と、上記底面部に対して略直角である 4 つの側面部と、上記 1 つの側面部の一辺に設けられ、閉じている状態では上記底面部と略平行となる蓋部とを備える略直方体の収納箱であって、隣接する上記側面部同士は互いに略直角であり、上記底面部の対向した 2 つの辺に接するように設けられた一対の上記側面部の一辺にそれぞれ設けられ、上記蓋部が閉じている状態では、上記側面部に対して略直角に折り曲げられ、上記蓋部と重なる一対の羽部を備え、上記底面部の対向した 2 つの辺に接するように設けられた一対の上記側面部は、切断部が設けられた 2 つのフラップを有し、上記フラップによって隣接する 2 つの側面部に接合されることを特徴とする。

【0007】

上記構成からなる収納箱は、上記羽部を備えているため輸送時に収納物が動き難く、また、上記切断部を切断することにより、使用後には容易に解体ができる。

【発明の効果】

【0008】

本発明に係る収納箱は、輸送時に収納物が動き難く、かつ使用後の解体が容易である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下、図を用いて本発明に係る収納箱について説明する。

【0010】

本実施形態に係る収納箱 1 は、図 1 に示すように、略矩形状の底面部 2 と、上記底面部 2 に対して略直角である 4 つの側面部（側面部 3 a 及び側面部 3 b）と、上記 1 つの側面部（側面部 3 b）の一辺に設けられ、閉じている状態では上記底面部 2 と略平行となる蓋部 4 とを備える略直方体の収納箱である。この収納箱は、隣接する上記側面部同士は互いに略直角であり、上記底面部の対向した 2 つの辺に接するように設けられた一対の上記側面部（側面部 3 a）の一辺にそれぞれ設けられ、上記蓋部 4 が閉じている状態では、上記側面部（側面部 3 a）に対して略直角に折り曲げられ、上記蓋部 4 と重なる一対の羽部 5 を備えている。また、上記底面部 2 の対向した 2 つの辺に接するように設けられた一対の上記側面部（側面部 3 a 又は側面部 3 b）は、切断部（切断部 7 a）が設けられた 2 つのフラップ（フラップ 6 a）を有し、上記フラップ（フラップ 6 a）によって隣接する 2 つの側面部（側面部 3 a 又は側面部 3 b）に接合されることを特徴とする。

【0011】

上記構成からなる収納箱 1 は、上記羽部 5 を備えているため輸送時に収納物が動き難く、また、上記切断部 7 a を切断することにより、使用後には容易に解体ができる。

【0012】

本実施形態に係る収納箱 1 は、図 2（蓋部 4 を閉じた状態）に示すように、略矩形状の底面部 2、該底面部 2 の互いに対向する一対の辺に接するように設けられた側面部 3 a、該底面部 2 a に対して略直角に隣接し、該底面部 2 の互いに対向する一対の辺に接するように設けられた側面部 3 b、閉じている状態では該底面部 2 と略平行である蓋部 4 によって略直方体の形状を形成する。そして、上記収納箱 1 の形状は、収納する物品によって適宜設計することができる。次に、本実施形態に係る収納箱 1 の各部について説明する。

【0013】

## 〔底面部〕

本実施形態に係る収納箱 1 は、底面部 2 を備えている。該底面部 2 は、図 3 に示すように、互いに対向する一对の辺で側面部 3 a 又は側面部 3 b と接している。実際には、本発明に係る収納箱 1 は一枚の板紙等からなるので、底面部 2 の辺となる部分、すなわち底面部 2 と側面部 3 a 又は側面部 3 b との境界部分を折り曲げることにより、底面部 2 を形成する。

## 【0014】

## 〔側面部 3 a〕

本実施形態に係る収納箱 1 は、略矩形状の側面部 3 a を備えている。図 1 又は図 2 に示すように、側面部 3 a は、互いに略平行であり、底面部 2 の互いに対向する一对の辺に接するように、それぞれ設けられている。

10

## 【0015】

## 〔羽部〕

本実施形態に係る収納箱 1 は、一对の羽部 5 を備えている。該羽部 5 は、図 1 又は図 3 に示すように、側面部 3 a の、底面部 2 と接する辺と対向する辺に設けられている。そして、該羽部 5 には、3 つの特徴がある。

## 【0016】

上記羽部 5 の 1 つ目の特徴は、収納物が収納された後、上記羽部 5 を収納箱 1 の内側に折り曲げ、さらに上記蓋部 4 を折り曲げ、上記羽部 5 の外側に上記蓋部 4 を重ねることにより、収納箱 1 の収納物が動きにくくなり、輸送時に収納物の破損等が起こり難く安全である。

20

## 【0017】

上記羽部 5 の 2 つ目の特徴は、収納箱 1 の解体時に、羽部 5 を折り曲げることにより、手で掴む部分が 2 重となり、力をかけ易くなるということである。

## 【0018】

具体的には、上記羽部 5 をさらに収納箱 1 の内側に折り曲げて、上記側面部 3 a に重ね合わせることで、上記側面部 3 a と上記羽部 5 が 2 重になり、把握部分となる。そして、この把握部分は 2 重になっているので、手でしっかりと掴むことができ、切断部 7 a の切断、即ち収納箱 1 の解体を容易に行うことが可能となる。

## 【0019】

なお、上記羽部 5 には、図 1 又は図 3 に示すように、折り線 8 が設けられていることが好ましい。具体的には、容易に折り曲げることができるような加工が施してあることが好ましい。

30

## 【0020】

また、上記折り線 8 は、上記側面部 3 a と上記羽部 5 との境界と略平行に、かつ上記羽部 5 を折り曲げたときに、上記底面部 2 と上記側面部 3 a との境界に近づくように設けられていることが好ましい。このようにすれば、収納箱 1 の解体時に、側面部 3 a が折れ曲がってしまわずに、しっかりと掴むことができる。

## 【0021】

## 〔開口部〕

上記羽部 5 の 3 つ目の特徴は、上記羽部 5 は、図 1 又は図 3 のように、その一部に開口部 9 を有しているということである。このような開口部 9 を設けることにより、上記羽部 5 を閉じた状態でも、収納した物品が見えるようになる。

40

## 【0022】

上記開口部 9 の形状は、上記羽部 5 を閉じた状態でも、収納した物品が見える程度であればよく、収納する物品の形状や大きさによって適宜設計すればよい。

## 【0023】

特に、上記把握部分を十分に確保しつつも、羽部 5 を閉じた状態で収納した物品が見えるためには、図 1 又は図 3 のように上記羽部 5 の端部のみが開口部 9 となっていることが好ましい。

50

## 【0024】

このような開口部 9 を設けることにより、特に、収納した物品が包装された注射器等の長い形状の場合、その本数を容易に確認することができる。

## 【0025】

## 〔側面部 3 b〕

本実施形態に係る収納箱 1 は、略矩形状の側面部 3 b を備えている。図 1 又は図 2 に示すように、側面部 3 b は、互いに略平行であり、底面部 2 の互いに対向する一対の辺に接するように、それぞれ設けられている。

## 【0026】

## 〔フラップ 6 a〕

本実施形態に係る側面部 3 b は、図 3 に示すように、フラップ 6 a を有している。該フラップ 6 a は、側面部 3 a と側面部 3 b とを互いに略直角に接合させるためにあり、これにより、図 1 又は図 2 のように、収納箱 1 が略直方体に形成される。

## 【0027】

具体的には、図 4 に示すように、上記フラップ 6 a が上記側面部 3 a に対して糊等により接着される。解体時には切断部 7 a が切断されるので、接着する部分は、例えば図 4 においては、フラップ 6 a 上の側面部 3 a の内側よりに、収納箱 1 が十分な強度を保つことができる程度に確保すればよい。

## 【0028】

## 〔切断部 7 a〕

また、上記フラップ 6 a は、図 3 又は図 4 に示すような切断部 7 a を有している。該切断部 7 a は、図 3 又は図 4 のように、直線上に等間隔に切り込みが入ったものが好ましい。このような形状の切断部 7 a は、収納箱 1 の使用時には十分な強度を保ち、解体時に力を加えることによって容易に切断され、収納箱 1 の解体が可能となる。

## 【0029】

具体的には、上記切断部 7 a は、ミシン線あるいは切込線を断続的若しくは連続的に刻切することによって、直線状に設けられているものである。よって、収納箱 1 の解体時には、上記切断部 7 a を切断することにより、収納箱 1 を容易に平坦状にすることができる。

## 【0030】

なお、本実施形態においては、図 3 に示すように、側面部 3 a に羽部 5 が、側面部 3 b にフラップ 6 a が設けられているが、例えば、側面部 3 a に羽部 5 及びフラップ 6 a の両方が設けられていてもよい。

## 【0031】

## 〔蓋部〕

本実施形態に係る収納箱 1 は、蓋部 4 を備えている。該蓋部 4 は、該蓋部 4 を閉じた状態では、上記側面部 3 a 及び側面部 3 b と略直角であり、かつ上記底面部 2 と略平行である。

## 【0032】

上記該蓋部 4 は、図 1、図 2 又は図 3 に示すように、上記側面部 3 b の一辺に設けられている。即ち、図 3 に示すように、上記側面部 3 b と上記蓋部 4 とは、それぞれの辺で接している。また、上記側面部 3 b と上記蓋部 4 との境界には、容易に折り曲げることができるような加工が施してあることが好ましい。

## 【0033】

また、上記蓋部 4 は、図 1、図 2 又は図 3 に示すように、フラップ 6 b を有している。そして、該フラップ 6 b は、差し込み部 10 及び切断部 7 b を有している。該フラップ 6 b は、図 3 に示すように、上記蓋部 4 の、上記側面部 3 b と接する辺と対向する辺に設けられている。

## 【0034】

## 〔差し込み部〕

10

20

30

40

50

上記差し込み部 10 は、初めて開封する際には、上記蓋部 4 を開封するための持ち手となり得る。つまり、該差し込み部 10 を掴んで上記蓋部 4 を開封することができる。さらに、収納箱 1 の開封後は、該差し込み部 10 を図 1 又は図 3 に示すような差し込み口 11 に差し込むことにより、再び蓋部 4 を閉じた状態にすることができる。

#### 【0035】

また、上記蓋部 4 のフラップ 6 b には切断部 7 b が設けられている。該切断部 7 b は上記切断部 7 a と同様の加工が施されているので、収納箱 1 を初めて開封する際に、切断部 7 b を切断することにより、容易に開封することができる。

#### 【0036】

収納物を入れた後には、図 2 に示すように、上記蓋部 4 のフラップ 6 b は、上記側面部 3 b に対して糊等により接着される。開封時に上記切断部 7 b が切断されるためには、接着する部分は、例えば図 2 においては、上記切断部 7 b よりも下部に設けられ、収納箱 1 が十分な強度を保つことができる程度に確保すればよい。

#### 【0037】

そして、収納箱 1 の開封時には、上記差し込み部 10 を掴み、上記切断部 7 b を切断することにより容易に開封することができる。

#### 【0038】

##### [材質]

本実施形態に係る収納箱 1 は、軽量性やコストの面から、紙製であることが好ましい。特に限定されないが、板紙や段ボール等の、強度を有する紙が好ましい。

#### 【0039】

特に、本実施形態に係る収納箱 1 の材質としては、十分な強度が確保でき、軽量かつ低コストである再生紙を使用した板紙が好ましい。

#### 【0040】

##### [使用方法]

次に、本実施形態に係る収納箱 1 の使用方法を、注射器が梱包された袋を収納する場合を例に挙げて説明する。

#### 【0041】

特に限定されないが、本実施形態に係る収納箱 1 は、一枚の板紙等を図 3 のような形状に切り抜くことにより製造される。この切り抜かれた板紙等には、底面部 2 と側面部 3 a 及び側面部 3 b、側面部 3 b と蓋部 4 及びフラップ 6 a、側面部 3 a と羽部 5、蓋部 4 とフラップ 6 b との境界部分等には、容易に折り曲げができるように加工を施すことが好ましい。

#### 【0042】

上記底面部 2 と側面部 3 a 及び側面部 3 b、側面部 3 b とフラップ 6 a の加工部分を折り曲げることにより、略直方体形状を形成することができる。さらに、上記側面部 3 のフラップ 6 a を、それぞれ隣接する上記側面部 3 b に対して糊付け等により接着する。これで、収納部分は略直方体形状となるので、物品の収納が可能な状態となる。

#### 【0043】

このように物品の収納が可能となった後、上記収納箱 1 には注射器が梱包された袋が収納される。そして、注射器が梱包された袋が収納された後、上記羽部 5 を収納箱 1 の内側に折り曲げ、さらに上記蓋部 4 を折り曲げる。このように、上記蓋部 4 の内側に上記羽部 5 が重なることにより、上記収納箱 1 の中の注射器が梱包された袋が動きにくくなり、輸送時に注射器の破損等が起こり難く安全である。

#### 【0044】

そして、上記蓋部 4 のフラップ 6 b を折り曲げ、上記側面部 3 b に糊付け等により接着する。このようにして、注射器が梱包された袋を収納した収納箱 1 が輸送可能な状態となる。

#### 【0045】

上記注射器が梱包された袋を収納した収納箱 1 を医療現場等で使用する際には、差し込

10

20

30

40

50

み部 10 を持ち、切断部 7 b を切断して開封する。また、開封後であっても、差し込み部 10 を差し込み口 11 に挿入することにより、再び蓋部 4 を閉じた状態にすることができる。

#### 【0046】

##### 〔解体方法〕

次に、本実施形態に係る収納箱 1 の解体方法を説明する。本実施形態に係る収納箱 1 を解体するには、先ず、上記羽部 5 を箱の内側に折り込み、側面部 3 a に重ねる。こうすることにより、側面部 3 a と羽部 5 とが 2 重の把握部分になり、手で掴んで展開する際に力を加え易くなる。

#### 【0047】

この 2 重の把握部分を掴んで側面部 3 a を収納箱 1 の外側へ引き離すことにより、フラップ 6 a の切断部 7 a が切断され、側面部 3 を箱の外側へと展開することができる。このとき、切断部 7 a があることにより、互いに隣接する側面部 3 a 及び側面部 3 b は容易に分離される。

#### 【0048】

上記解体方法によって、本実施形態に係る収納箱 1 は、容易に直方体から平坦状になる。このように、本実施形態に係る収納箱 1 は、かさばらない状態とすることができるので、収納箱 1 の回収や破棄が簡単になる。

#### 【0049】

##### 〔収納する物品〕

本実施形態に係る収納箱 1 は、特に、医療用品の輸送に用いることが好ましい。さらには、個別に梱包された複数の注射器の輸送に用いることが好ましい。

#### 【0050】

具体的には、本実施形態に係る収納箱 1 は、注射器が個別に梱包された袋を収納するために用いられる収納箱であることが好ましい。例えば、注射器を梱包する袋は、通常のピロー包装の袋等であり、その包材の種類や袋の形態について特に限定はない。

#### 【0051】

本実施形態に係る収納箱 1 は、羽部 5 を備えているため、輸送中に内部の注射器が動き難い。また、上記羽部 5 が開口部 9 を有しているので、収納箱 1 中の注射器の本数を容易に確認することができる。

#### 【0052】

さらに好ましくは、上記注射器とは、予め薬品が充填された使い捨ての注射器であることが好ましい。

#### 【0053】

ここで、上記予め薬品が充填された使い捨ての注射器とは、樹脂製のシリンジを備える、ピロー包装されたものであることが好ましい。このような樹脂製のシリンジは、従来のガラス製の物のように、割れたりする危険性が少ないので、本実施形態に係る収納箱 1 のような紙製の箱に、ピロー包装された状態で収納して、複数本を同時に輸送することができる。

#### 【0054】

また、上記薬品とは、例えば、ヒアルロン酸等である。上記薬品が、ヒアルロン酸等の定期的に供給が必要な薬品の場合であっても、本発明に係る収納箱を使用することにより、安全に、かつ大量の注射器を輸送することができる。

#### 【0055】

##### 〈作用効果〉

以下、上記実施形態に係る収納箱 1 の作用効果について説明する。

#### 【0056】

上記構成からなる収納箱 1 は、上記羽部 5 を備えているため輸送時に収納物が動き難く、また、上記切断部 7 a を切断することにより、使用後には容易に解体ができる。

#### 【0057】

そして、上記羽部 5 は、その一部に開口部 9 を有していてもよい。このような開口部 9 を設けることにより、羽部 5 を閉じた状態でも、収納した物品が見えるようになる。

【0058】

また、上記蓋部 4 は差し込み部 10 が設けられたフラップ 6 b を有し、上記フラップ 6 b が重なる側面部（側面部 3 b）は上記差し込み部 10 が挿入される差し込み口 11 を有していてもよい。このようにすれば、開封後であっても、再び蓋部 4 を閉じた状態にすることができる。

【0059】

また、上記収納箱 1 は、十分な強度が確保でき、軽量の板紙製であってもよい。

【0060】

10

また、上記収納箱 1 の解体時には、上記羽部 5 を上記側面部（側面部 3 a）に重ねて 2 重とし、前記 2 重となった部分を掴んで上記切断部（切断部 7 a）を切断して平坦状に変形可能に構成されている。このように、かさばらない状態とすることができるので、収納箱の回収や破棄が簡単になる。

【0061】

また、上記実施形態に係る収納箱 1 には、個別に包装された注射器を収納してもよい。そして、該注射器には、薬品が充填されていてもよい。上記実施形態に係る収納箱 1 は、十分な強度を持ち、輸送時に収納物が動き難く、かつ使用後の解体が容易であるため、注射器等の医療現場で使用する物品を収納して輸送するのに適している。

【0062】

20

以上、本発明に係る収納箱について、実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらに制限されるものではない。例えば、図 1 ないし図 4 に係る収納箱は、梱包された注射器が一行に収納されるような形状のものを想定しているが、梱包された注射器が 2 段もしくはそれ以上で収納されてもよい。この際、それぞれの段の間に板紙等を挟み込むことにより、注射器が動くことを防止できる。

【0063】

また、本発明に係る収納箱は使い捨てであってもよい。このようにすれば、清潔な状態で注射器等の医療品を扱うことができる。

【図面の簡単な説明】

【0064】

30

【図 1】本発明に係る収納箱の開封時の斜視図

【図 2】本発明に係る収納箱の蓋部を閉じた状態の斜視図

【図 3】本発明に係る収納箱の展開図

【図 4】本発明に係る収納箱の側面部の内側を表す図

【符号の説明】

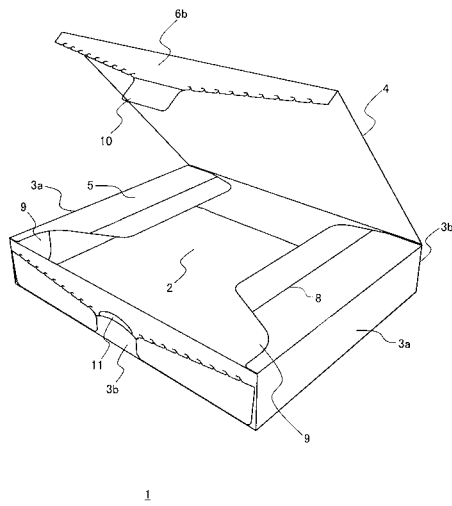
【0065】

- 1 収納箱
- 2 底面部
- 3 a、3 b 側面部
- 4 蓋部
- 5 羽部
- 6 a、6 b フラップ
- 7 a、7 b 切断部
- 8 折り線
- 9 開口部
- 10 差し込み部
- 11 差し込み口

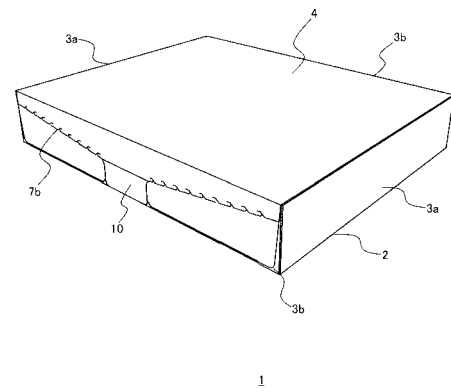
40



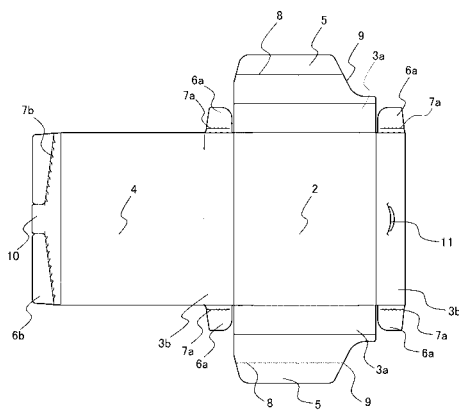
【図 1】



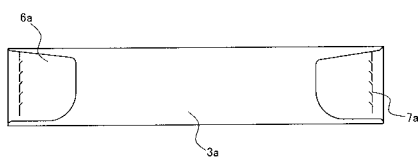
【図 2】



【図 3】



【図 4】



---

フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I テーマコード (参考)  
**A 6 1 M 5/28 (2006.01)** A 6 1 M 5/28

(72)発明者 多幡 恒太  
新潟県糸魚川市大字青海 2 2 0 9 番地 電気化学工業株式会社青海工場内

(72)発明者 日置 和利  
新潟県糸魚川市大字青海 2 2 0 9 番地 電気化学工業株式会社青海工場内

(72)発明者 奥野 久志  
富山県富山市塚原 2 3 - 1 富山スガキ株式会社内

F ターム (参考) 3E060 AA03 AB13 AB18 BA04 BA08 BC04 CC03 CC18 CC33 CC43  
CE04 CE07 CE15 CE27 DA23 DA30 EA09 EA20  
3E068 AA40 AB04 AC02 BB02 CC04 CC22 CD01 CE02 DD02 DD13  
DD40 DE14 EE01  
3E096 AA03 BA30 BB01 CA03 CB03 CC01 DA30 DB01 DC01 EA01X  
EA01Y FA09 GA14  
4C066 DD08 LL22